

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病院長 岩波 明
〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第188号

[2023年5月30日発]

自己紹介

B4 病棟看護師長 伊宝田 さとみ

2023年3月1日付で昭和大学病院より異動し、B4病棟の責任者となりました伊宝田（いほだ）さとみと申します。

私自身、入職して以来、初めての学内異動となります。今までの通勤時間自転車10分から電車で1時間以上となり、異動が決まった際には周囲に「通勤は大丈夫？」と心配されましたが、ようやく慣れ、今では通勤時間は良き読書タイムとなっております。

私が昭和大学病院入職後に配属されたのは象徴的存在の17階建ての入院棟ではなく、中央棟が建つ前の本館でした。入院棟に憧れて入職したはずが、本館から入院棟を眺めながら日々働き、昭和大学の一員としての自覚が少しずつ芽生えました。創設時代からの由緒ある本館は天井がとても高く、時々鳩が舞い込んで廊下の天井を羽ばたいているような今では考えられない、ある意味平和な時代でした。そんな入職以来いろいろな病棟をまわり、直近では消化器センターや小児医療センターで勤務させていただきました。精神科領域については、以前に昭和大学病院附属東病院の3階に精神科病棟がありましたが、私にとっては「ちょっと特別な病棟」という認識程度のほぼ素人です。そんな中、いろいろな職種のスタッフの方に教えていただきながら、精神科領域の奥の深さややりがいを少しずつ感じております。まだまだ精神科患者さんとの距離感や対応に戸惑いがあり、今は経験値を上げなくてはならない段階です。が、精神科領域に携わらせていただくのも、私にとって看護師としての幅を広げることができる大きなチャンスととらえ、自分に課せられた役割を遂行していきたいと思っております。



最後に余談ですが、烏山病院の先には某スタジアムがあります。今まではアウェイとして年に一度の期間限定で烏山病院そばを通っておりました。ホームになることはありませんが、何となくテンションの上がる日々を送っております。どうぞ宜しくお願いいたします。



研究留学報告：医療データベース研究最先端の北欧から学んだこと

臨床薬理研究所 講師 龍 家圭

こんにちは。私は、スウェーデンに研究留学する機会をいただき、2023年3月に帰国してまいりました。約1年6か月間の留學生活について報告いたします。

私が渡航した2021年9月の日本は、COVID-19の第5波が始まったころでした。このタイミングで海外渡航できたのは、当時のスウェーデンは“日本からの渡航者は受入可能”であったことと、昭和大学の渡航許可があったからです。直後にスウェーデン政府の方針で日本も入国禁止対象国にリストアップされたので、本当にタッチの差で渡航できました。当時、渡航許可していただいた大学の先生方に感謝しております。

私の留學目的は、医療データベース研究について学ぶことでした。スウェーデンはこの分野で非常に進んでおり、これを可能にしているのが、全国民に与えられている「パーソナルナンバー」によるところが大きいです。全病院がオンラインで連携し、患者の治療歴、予後等を追跡が容易であり、様々なレジストリー研究が可能です。さらに、行政機関などが業務で集めている情報を、研究目的で二次利用できるデータベースもあり、必要なら教育歴や稼得状況、婚姻状態、世帯人数等の社会経済情報も利用可能だそうです。

私は、カロリンスカ研究所の腎臓領域にて研究する機会をもらい、慢性腎臓病患者のデータセットと骨折データベースを触る機会がありました。データベースに含まれている情報は、記録方法も項目名も言語（スウェーデン語と英語）も統一されてなく、これを解析するため情報を揃える「データクリーニング」という作業が大変でした。データベース研究の作業の8割はこのクリーニング作業であり、この作業を実際に体験しつつ研究できたことは良かったです。



カロリンスカ研究所がある、スウェーデンの首都ストックホルムでの滞在は快適でした。春は桜を堪能し、夏は長い日中と公園を楽しみ、秋は博物館・美術館とノーベル賞の発表式があり、冬は雪遊びとスケートそしてクリスマスを楽しみました。



冬は雪遊びとスケートそしてクリスマスを楽しみました。

今後は、日本のデータベースを利用したり、また自身でデータを収集し独自のデータベースを作成する予定です。さらに昭和大学の留學経験者の交流促進と、研究留學を考えている者への支援体制構築も目指しています。

以上で報告となります。

みなさんにとって、はたらくとは？

西川病院主催の IPS ラーニングツアーに参加して

薬局 助教 安藤 睦美

2023年3月、島根県にある社会医療法人清和会西川病院が主催した、IPS ラーニングツアーに参加しました。はたらきたいと願う人にどう関わるかなど、「はたらく」について考える貴重な2日間を経験したので、ご報告させていただきます。

IPSをご存知でしょうか。iPS？細胞？違いますよ～。

IPSとは、**Individual Placement and Support**の略称で、個別就労支援プログラムと訳されます。精神障害者がはたらくことをサポートする援助付き雇用モデルの1つで、多くの研究により8つの基本原則に忠実であるほど効果が上がることが臨床研究で実証されています。

従来の就労支援は「Train then Place(訓練してから働く)」ですが、IPSでは「Place then Train(働きながら訓練する)」という考え方が特徴的です。私がIPSに興味を持つきっかけの1つとなった考え方で、西川病院の林輝男先生はご講演で、「我々も働く練習はせずに就職する」とおっしゃっていました。確かに医療者も知識を勉強したり実習したりしますが、例えば電話や他部署への対応などは働きながら身に付けます。本人が働けるかどうかは誰にも予測できないことであり、精神障害者のみ働くための訓練が必須というのは違うなと私は思います。

今回のツアーでは、講演やワークショップ、当事者との座談会、企業訪問などに参加しました。座談会で特に印象的だったのは、ご自身でハローワークに赴いた当事者が、ハローワークのスタッフから西川病院のIPS支援チームを利用するよう勧められたことです。企業訪問では、当事者の上司の方々が、「特別なことを見つけられない」と笑いながら顔を見合わせ、「彼が苦手な作業はあるが、普通に教育している」と当事者に向けた温かい視線を忘れられません。その後、移動のバスの中で、西川病院のみなさまは「あの状態になるまでが大変だった」とお話をされていました。IPSの基本原則にもある、計画的な職場開拓と雇用主支援、就労支援と精神保健サービスの統合の実際を知ることができました。

ツアーの最後に参加者みんなで、「自分にとって働くとは」というテーマで話をしました。2日間の研修を終えた、その



ときの私は言葉に詰まってしまいました。思い返すと、IPSに興味を持った原点に戻っていた気がします。私が働けるかどうか私自身を含め誰にも予測できず、薬剤師として働いている今も、訓練をしている真っ最中です。

最後に、IPSの実践者には幅広い職種が含まれます。就労支援を実践している方、お声かけさせてください。また、一緒にわくわくしてくれる方、ぜひ薬剤師の安藤までお声をかけてください。



デイケア活動 お花見

Mさん



デイケアでは3月にお花見のイベントがありました。今日はお花見のイベントについて紹介します。

リハビリテーションセンターに集合して、みんなで電車に乗って会場の新宿御苑に向かいました。

当日は曇りでしたが、雨は降らず、最適な気温で気持ちよくお花見ができたと思います。

会場に着いた後ブルーシートを敷いてクイズ大会を催しました。事前にクイズの答えを考えて挑みましたが、難しかったです。正解した人は2, 3人いました、凄い!

大会のあとはお弁当を食べました。食事を終えた後、みんなで協力して容器を片付けました。午後には歓迎会と送別会がありました。新しく入る看護師さんに色々な質問をして歓迎会をしました、送別会では4月に移動する看護師さんに手紙で送別の言葉を送りました。

その後は自由散策して各々お花見を楽しみました。新宿御苑は広く、色とりどりの桜が見られます。来年のお花見も楽しみです。



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時

土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《4月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8,387(8,621) 6,141(6,557)

◇一日平均患者数 279.6(278.1) 255.9(252.2)

◆診療実日数 30(31) 24(26)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。

こちら当院のホームページのQRコードとなります。

ぜひご覧ください。



【編集後記】

5月も終わりを迎え、気温の寒暖で体調崩しやすい時期です。季節も一つ進んでいきますが、皆様旬の食べ忘れはないでしょうか？春の旬と言えば山菜、私の地元北海道では蕨（フキ）が有名です。数少ない日本原産の野菜、淡泊で繊維質なため物足りなさを感じやすいですが、調理次第で副菜に打って付けです。

梅雨入りが近づいていますが、6月も食材の宝庫です。旬な物を食べ心も体もエネルギー充填して、日々乗り越えていきましょう。



(広報委員 山本)